

「一流になりなさい。それには、一流だと思ひ込むことだ」という本からです

人間は無限に成長する最大の資産なんだよ。

人間を、とことん大事にする。船井幸雄先生の大好きな特性でした。企業経営には、貸借対照表というものがああります。企業の資産、つまり財産と、負債・資本を対照して一覧にしたものです。

ところが、この表に載らない大事な資産が三つあります。それは「顧客・社員・信用」の三点です。信用は、顧客と社員の接点から育まれます。顧客と社員の量と質が高まるなかで、高められていくわけです。

この三つを、無限の価値をもつ無限資産とも呼んでいます。企業の経営は、この三点の蓄積で評価されるものと考えています。「人間を大切にできない企業は、未来に残るはずがない」船井先生が、事あるごとに口にする言葉でした。大切にすること、それは、その人間の未来を大切に考え、その未来を滋むことです。どうしてこんな人を大切に思うのだと思うことも、正直ありました。しかし、船井先生は言うのです。「どんな人間だって不必要な人間はいないよ、まして不要な人間など一人もいない」すべての人間が役割をもって生まれてくる。その一つの言葉が、船井幸雄先生の下で働きたいと思わせてくれました。

役割があるなら、その役割を見つけて、導いてあげたい。それこそが人間の幸せであり、人生の幸せなのだ、と、船井先生はいつも考えていました。「いまどうかで人を判断してはだめだよ。人間はあるとき、一つのきっかけで無限に成長するものだ。この世の中で最大の資産なんだよ」

会議の場で、どうしても成果の出せないリーダーの名前が挙がった時のことでした。珍しく怒気を含んだ声での発言に、たちまち会議室が静かになったのです。「なんなら私が預かります。しごいてやるけどな」彼はこの仕事には向かないよ。軽い口調で口にした部長は、うつむいていました。人間は無限に成長する最大の資産、私のノートにしっかりと、^{したた}認められています。その船井先生の哲学が、多くの人々を引きつけるのです。自分の成長に悩み、退職を考えていた若者を先生のところへ連れて行ったときには、「まだ若いじゃないか？未来には果てしない可能性があるよ。

いまはどうでもよい。未来を想って夢をつくってごらん」そう語ってくれました。25歳の青年にとって、その言葉はどれだけの勇気になったことでしょうか。我が子を見ていて、強く思うのです。未来に思いを馳せ、その未来をともに語り合い、君の夢は僕もとても楽しみだと、語ってくれる師を、是非もって欲しいと。船井幸雄先生の優しさは、いまを認め、すべての現状を肯定し、常に未来へと視線の行き先を導いてくれる点にあるのです。「うん。大丈夫だよ。ともに頑張ろう！」そう語ってくれる師がいる幸せが、長男由樹にもきつくとくと信じています。

花巻にある、旧花巻農学校、今の花巻農業高校の一角に、宮澤賢治が勤めた時代の建物が残っています。はじめて歩いてくれた、その年の夏。由樹を連れてそこを訪ねました。16歳の高校生とき以来のことです。校庭へ入ると小さな石碑が置かれています。そこに刻まれている宮澤賢治の言葉を、由樹とともに見たかったのです。「われらの前途は輝きながら峻峻である」小さな声で、彼の耳元に読み聞かせてみました。もちろん、わからないでしょう。そのことすら覚えていてくれることはないかもしれません。

でもいつか、未来は、輝いている。そりゃ厳しい道だけど大丈夫だぞ。さあ進もう。そう語ってくれる師を見つけてくれればと思ひながら、その碑の前に立ち続けていました。

企業経営には、貸借対照表というものがああります。企業の資産、つまり財産と、負債・資本を対照して一覧にしたものですがこれに載らない大事な3つの資産は何ですか？

() () ()